

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

診療ガイドラインの今後の整備の方向性についての研究

研究分担者 中島 信久 琉球大学医学部附属病院診療教授

研究要旨：影響力の大きい海外の診療ガイドラインを国内でどのように活用するかに関する系統的な議論は乏しい。しかし、これらの活用は、診療ガイドライン作成の効率化、新しいエビデンスの迅速な現場への周知に役立つ。そこで、内容の整合性と必要な独自性を保ちながら、国内の状況に適応させた診療ガイドライン開発の方法論を検討する。

A. 研究目的

影響力の大きい海外の診療ガイドライン (GL) を国内でどのように活用するかに関する系統的な議論は乏しい。しかし、これらの活用は、GL 作成の効率化、新しいエビデンスの迅速な現場への周知に役立つ、そこで、内容の整合性と必要な独自性を保ちながら、国内の状況に適応させた GL 開発の方法論を検討することを本研究の目的とした。

B. 研究方法

日本緩和医療学会 (JSPM) が刊行する 7 つの GL 関連刊行物のうち、現在改訂作業中の刊行物について、adaptation の実施可能性を検討する。

(倫理面への配慮)

(該当なし)

C. 研究結果

(1) がん疼痛の薬物療法に関する GL (がん疼痛 GL) :

EAPC (European Association for Palliative Care)、ESMO (European Society for Clinical Oncology)、NCCN (National Comprehensive Cancer Network) が刊行する各ガイドラインを GRADE、Minds の GL 改訂作業プロセスにおいて adaptation できるか否かについて検討したが、内容、刊行時期などの点から、既存のエビデンスをもとに adaptation を図ることの有用性は現時点において乏しいと判断した (昨年度報告済み)。

(2) 終末期がん患者の輸液療法に関する GL :

ESPEN (European Society of Parenteral and Enteral Nutrition)、ASPEN (American Society of Parenteral and Enteral Nutrition)、さらには国内で刊行されたものとして日本静脈経腸栄養学会の各ガイドラインを上記 GL 改訂作業プロセスにおいて adaptation できるか否かについて検討したが、構成内容、刊行時期など

の点から、これらの GL に示されている既存のエビデンスをもとに adaptation を図ることの有用性は現時点において乏しいと判断した。

(3)がんの補完代替療法クリニカルエビデンス：

この刊行物は前回の作成プロセスにおいて GL 化ができず、クリニカルエビデンス集として刊行したものである。ここで扱う対象項目は多岐にわたるため、「がんリハビリテーション」に限定して、国内外のがんリハビリテーションを扱う GL を用いて上記プロセスに沿った adaptation を行い、GL として刊行できるかを含めて検討したが、知見を整理して推奨を立てるには至らなかった。

D. 考察

昨年度、がん疼痛 GL において既存の GL の adaptation を行うことができなかったため、今年度は、上記 2 つの GL について、EAPC、ESMO、NCCN の他に国内外の学会の GL も追加して、類似した Clinical question について adaptation の可能性を検討したが、文献検索方法の相違、システムティックレビューの対象、方法、時期の相違などという課題が浮かび上がった。これらの課題を解決することが adaptation を有効に行い、効率的に質の高い GL を作成することにつながると考えられた。

E. 結論

がん疼痛を始めとした複数の GL について adaptation を試みたが実現は困難であった。今回の研究において明らかとなった

GL 作成プロセス上の課題の解決を図りながら今後の GL 作成に携わることにより、adaptation を含めた GL 整備の質的、量的な向上につなげることが求められる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Nakajima N.

The effectiveness of artificial hydration therapy for patients with terminal cancer having overhydration symptoms based on the Japanese clinical guidelines. A pilot study.

Am J Hosp Palliat Med 2019 Dec 23 [Epub ahead of print]

Nakajima N.

Effectiveness of rapid titration with intravenous administration of oxycodone injection in advanced cancer patients with severe pain.

Jpn J Clin Oncol. 2019; 49; 1061-1064

2. 学会発表

中島信久. がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き 2018 年版…「ガイドライン」ではなく「手引き」である理由. 第 24 回日本緩和医療学会 (2019.6.22, 横浜)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし